

研修等報告書

平成30年11月26日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 徳清会

議員 栗尾 順三 ㊟

議員 馬越 裕正 ㊟

議員 森岡 聰子 ㊟

議員 仁科 文秀 ㊟

下記のとおり研修等を実施したのでその結果を報告します。

記

第13回 全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

30年11月14日(水)・15日(木) 宇都宮市文化会館

主催・・・全国市議会議長会、公益法人 後援・総務省

実施・・・第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

参加目的

○議会と住民の関係を知り、住民にとって(市民にとって)議会が何をしていくべきかを勉強し、今後の活動に生かしていく。

全体概要

○14日の午後1時から「地域共生社会をどうつくるか」というテーマでの基調講演。そのあと「議会と住民との関係について」のパネルディスカッションがあり、現場で実践されている人や研究者、新聞社などのパネリストが発表。

2日目の15日は同じ「議会と住民との関係について」全国各地の市議会議員の代表によるパネルディスカッションがあり、熱い議論、意見交換があった。

全国から約2300人の市議会議員が宇都宮に集まった。

岡山県内の参加は60人。笠岡市11人のほかは、津山市、総社市、高梁市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、美作市の参加。

住 所	宇都宮市明保野町7-66
電 話	028-636-2121
案 件	第13回 全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮
期 日	平成30年11月14日(水)・15日(木)
応 対 者	
状 況	
訪問施設	宇都宮市文化会館
概 要	●スケジュール&講師等 11月14日(木)
	① 基調講演 「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を超える自治体 のかたち 宮本太郎氏(中央大学法学部教授) ○2040年は、たいへんな時代。それを講師は「重量挙げ化」「漏斗化」という言葉で表現した。つまり・・・ 「重量挙げ化」⇒地方では高齢化はピークを過ぎるが、現役世代が激減し持続可能性が問われる。 「漏斗化」⇒若者が流入してきた東京圏でも人口規模は維持できても低い出生率でさらなる高齢化が進み、持続可能性が問題になる。 ○2040年には896の自治体が消えると言われている。(そのなかに笠岡市も入っているが)ピンチをチャンスに変えた自治体は残り、ピンチに飲み込まれた自治体は消える可能性あり。 これからの地域づくりは、「地域共生社会」。 制度、分野の縦割りや支え手、受け手の関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が地域をよくしていくことを自分のこととして参画し、ともに地域を創っていく社会が必要だと説く。 ○これからは人生100年時代。日本人の半数が107歳まで生きることができる時代になる。定年がターニングポイント。 だれもが人財のまちにならなくてはいけない。とくに、定年後の男性の地域デビュー支援でご当地を「生涯学習のまち」にすること。ずっと出番のある、生きがいのあるまちにする。 ○新しい家族縁、地縁、仕事縁は必要な縁。 住民のチャンスを現実化するためには、政治の役割はきわめて大きい。

② パネルディスカッション「議会と住民の関係について」

■コーディネーター

江藤俊昭氏（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

■パネリスト

今井 照氏（公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員）

本田 節氏（（有）ひまわり亭代表取締役 食・農・人総合研究所
リュウキンカの郷主宰）

神田誠司氏（朝日新聞大阪本社地域報道部記者）

小林紀夫氏（宇都宮市議会議長）

○まず、江藤氏は「議会と住民の関係」というテーマで、住民の意見を集約し統合し地域の発展につなげるために、行政も重要であるが、本来多様な議員によって構成される議会がその役割を担う。その際、議会の役割を發揮するには住民との協働が不可欠であることを説いた。

○今回のパネルディスカッションを通して、私が気になったキーワードは「主権者教育」という言葉であった。主権者教育は生徒や若者への教育の専売特許ではなく、住民自治を進める役割を担う。最近の選挙では、投票率が30%台ということが珍しくなく、地域社会の出来事を自分のこととしてとらえ、自ら考えること、主体的に判断する姿勢が求められている。この点での議会の役割も大きいと思う。

○このパネルディスカッションでは、住民から信頼される議員の要素として、議会人としての使命感や誇りとともに、住民参加型の活動に積極的に参加し、問題をしっかり把握することの大切さが強調された。

また、朝日新聞の神田氏は、議会が多様な民意を汲み上げる組織になっていないのではないかと疑問を投げかけ、議員に必要なのは話す力ではなく、聞く力だと訴えた。

○本田氏は、熊本県の人吉市から来られた。市議を2期経験し、県への影響力が必要と考えて、県議選に挑戦したが敗れた。その後、熊本の震災から学び、「自己啓発・自立・地域貢献・生涯現役による自己実現」を掲げ、農村レストラン「ひまわり亭」をオープンし、60歳新入社員という高齢者雇用型の事業をスタートさせ、地域でダイナミックに活動している。刺激を受けた。

11月15日（金）

③ パネルディスカッション「議会と住民の関係について」

■コーディネーター

江藤俊昭氏（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

■パネリスト

桑田鉄男氏（久慈市議会副議長）

伊藤健太郎氏（新潟市議会議員、

新潟市議会主権者教育推進プロジェクトチームリーダー）

ビアンキ アンソニー氏（犬山市議会議長）

道法知江氏（竹原市議会議長）

○2日目のきょうは、議員の立場で、議会改革、議会基本条例などについて、先進地の取り組みを発表していただいた。

江藤氏は、議会基本条例制定の最も大きな意義は、閉鎖的な議会から住民に開かれ住民参加を促進する住民とともに歩む議会、質問・質疑だけの場から議員間討議を重視する議会、それをふまえて追認機関ではなく首長等と政策競争をする議会という3つの原則を宣言したことだと言う。

議会からの政策サイクルの要素として、起点としての住民との意見交換会（議会報告会）、行政評価をすることで決算審査・認定は充実し予算要望にもつなげる、政策課題の抽出と調査研究・政策提言、総合計画を意識した活動に変わることなどの説明があった。

○桑田氏（久慈市議会副議長）

政策形成段階における市民との協働として、議会と市民が、市民同士が、問題を共有し、課題に昇華する場を作っている。楽しい雰囲気をつくるワールド・カフェ方式、対話スキルはファシリテーション。このファシリテーションについては議員全員が研修を受けている。

こうした会議に参加した人は、議員と一緒に久慈市のことを考えるようになり、この経験をした人の中から議員になった人もいるという。

○伊藤氏（新潟市議会議員）

新潟市議会では、有志議員により学校等と協働で主権者教育が進められないかとの発案があり、活動が始まった。中学生や高校生を対象に合意形成のロールプレイングを交えた模擬市議会を開催し、市議会や市議会議員が果たす役割を理解してもらうとともに、正解が一つに定まらない問題に対する意思決定についても学んでもらった。いままで、市議会議員には会ったこともなかった中学生・高校生にとっても議会や議員が身近な存在になった。

議会報告会を大学生対象におこなうことも一案である。大学生は知識や知恵をもっており、意見も出やすいと伊藤氏は言う。議員にとっても刺激になり、議員としても変わると言う。

○ビアンキ アンソニー氏（犬山市議会議長）

日本の市議会議員として働くアンソニー氏が、母国アメリカの議会を参考に、新たなやり方を導入した。

日本の議会は、受け身すぎて行政とのバランスが良くて十分に機能していない。もっと積極的にならないといけない。必要なのは3点。

- ・議員間討議（議員同士が議論しないと議会として物事が決められない）
- ・政策立案・政策提言力の向上（討議は提案につながらなければならない）
- ・市民参加

（市民のニーズを反映できるよう意見を吸い上げる場を増やす）

議会答弁が納得できない一般質問を生かし、議員間討議で意見を集約し提案へとつなげる。

市民参加の仕組み

市民参加の機会と形を増やす（市民フリースピーチ、女性議会など）

↓

各課題に対する議員間討議（全員協議会）

↓

意見集約（議会としての提言、決議、申し入れなど）

市民フリースピーチ

- ・・・定例会開催期間に市民が議場で議員に対し市政全般に関して「5分間」自由に発言する。その意見は、全員協議会で議員間討議をおこない、申し入れなどのアクションをとる。
- HPで公開。

女性議会

- ・・・公募で「いちにち女性議員」を募集し、10人が参加。
- 事前勉強の後、一般質問での行政の答弁に対する疑問を「いちにち女性議員 議員間討議」として意見交換しその結果を議長に申し入れ。議会では全員協議会で討議し、意見集約できたものは行政へ申し入れすることもある。

○道法知江氏（竹原市議会議長）

11月11日に選挙があり、4期目の当選を果たしたばかり。

東京都板橋区出身でなれないミカン農家に嫁ぐ。政治の世界に飛び込む決意をしたのは、女性軽視の社会を変えたい、身近の困っている母親たちの本当の声を直接届けたい、誰もが認めあえるような地域社会を構築したいという強い思いから。

勇気をもって声をあげていくことの大切さ、一歩踏み出す勇気と行動力が必要。議員11年目に議長になり、女性の議会運営委員長と2人3脚で進めてきた。7月の豪雨災害では、議員行動マニュアルを施行した。

	○このパネルディスカッションでも、「主権者教育」の重要性が説かれた。 これから将来のまちづくりに大切になってくる大きなテーマである。
添付書類	研修等資料、写真、名刺

視察状況写真

別紙

